

研究の構想図

小学校教育につながる幼稚園教育のあり方

〈目指す幼児の姿〉

～「きょうどう」～

年少：気の合った友達と共通のイメージや目的をもち、遊びを進めていく幼児。

年長：友達のをさを認め合い、協力して活動を進め、さらに発展させていく幼児。

～「かがく」～

年少：身近な環境に興味や関心をもち、いろいろな発見をする幼児。

年長：身近な事象への興味や関心を高め、考えたり試したりする幼児。

～「ことば」～

年少：教師や友達の話を聞き、自分の思いや考えを言葉で伝える幼児。

年長：友達と心を動かす体験を積み重ね、それを言葉を使って伝え合う幼児。

教育課程・指導計画の見直し

- 指導計画の中で、幼稚園教育の中で育ててきたもの、育てたいものを明確にし、充実させ、3つの視点から整理する。
- 指導計画と幼稚園教育要領・小学校学習指導要領を照合する。
- 教育課程を小学校と幼稚園で比較し、行事や活動のつながりを比較する。

教育活動の展開

- 指導計画に基づく、日々の教育活動の展開。
 - ・ 3つの視点をもとに保育実践を行う。
 - 「ねらい」や「内容」を視点から捉え、効果的な教師の援助や環境構成を行う。
- 小学校との連携
 - ・ 園児と児童の活動や行事での交流。
 - ・ 職員相互の連携
- 卒園児の「学びの芽」の育ちについて、追跡調査を行う。

「学びの芽」を育てる
教育活動の実践

3つの「学びの芽」

- ・ 「きょうどう」(視点①)：他者と協同し合って新たなものを創り出していく力
- ・ 「かがく」(視点②)：体験や経験を通して科学的思考の基盤となる力
- ・ 「ことば」(視点③)：集団の中で、言葉を使って自己を発揮していく力

本園の実態

- 小学校との計画的な交流行事や定期的な情報交換による教師同士の相互理解がそれほど多くない。
- 卒園児の姿が、教育課程・指導計画とどこでつながっているのか明確でない。
- 市内の他の小学校に通う卒園児の様子を知る機会が少ない。